

自己評価結果公表シート

学校法人 サント・アンゼロ学院

カトリックさゆり幼稚園

1. 本園の教育目標

カトリックさゆり幼稚園は、設立母体であるカトリック守護の天使の姉妹修道会の教育方針に沿って、園と家庭が一体となって幼児の基本的生活習慣と、望ましい人間形成の基礎づくりを、あたたかい宗教的雰囲気の中で形成することを目的としている。
教育理念の基本は、神様の愛を知り、感謝の心を育て、神と人々を愛する『思いやりの心』『素直な心』を育成し、自主性を持って正しい行動を選び、最後まで『がんばる』ということを強調しその達成に全力をそそぐこと。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

宗教教育及び本園の教育課程の内容を再確認し、教職員の共通理解をはかり、課題を明確化し、改善に努める。
そして、一人一人のかかわりを大切に、今年度も【心の教育】に重点を置き、日常の出来事の中で、例えば、『心の傷』『嘘』『自分さえ良ければよい』『友達を思いやる』『頑張る』『かけがえのない一人である』『命は自分だけのものではない、家族みんなのもの』など人間形成の基本となる幼児期、人として何が大切なのかを子ども達と共に考えながら、より多くの体験、経験が子ども達同士でできるよう、保育の質の向上を図っていく。
保育についての悩み、今後の目標などを分かち合い幼稚園の発展に推進する。
子育て支援にも力を入れる(長期休暇の預かり)と共に、教育の質を高める。と同時に、個人の資質向上をも図っていく。

3. 評価項目の達成および取り組み状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程を見直し、教職員間の共通理解をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領の理解・本園の教育方針を教職員で推進し、それを日々の保育に照らして具体的な場面について(毎月の子どもの様子・成長・個人差・行事等)話し合いを行っている。 各学年、また3学年のカリキュラムを見直し、反省、評価を実施の上、次年度の目標を定め、教職員理解のもと、各年齢に応じた保育を推進している。 異年齢の関係を大切に、縦割り保育を定期的に行い、思いやり(助け合い・譲り合い・許し合い)の心を育てる。 日々の生活をしている中で、関わりを持つ人(自分・家族・友達・自分と友達)・自分の周りにある物・生き物・自分の住む地域・日本・世界のことなど様々な事柄・出来事に目を向け、先生、クラスのみならずで考えることで、一人一人の心が育つ大切な時間を持つ。(寄り添う心・感謝する心・祈り等) 命の大切さ・尊さを知り、世界にたった一人のあなたはあなただから大切な存在、愛されるべきたった一人の大切な存在であることを宗教教育に基づき、自分の存在に感謝し、人の痛みが分かり、人の喜びを共に喜べる、心豊かになれるよう、保護者の協力のもと、子ども達と向き合う。 チャリティーバザーを通して、世界に目を向け、困っている方々に寄り添い、今、自分達に何ができるかを考え、保護者の協力のもと、小さな力を合わせる事により少しでも大きな力となり、人を助けることにつながることを知る。また、恵まれた日々にも感謝する心を養う。
幼稚園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	<p>昨年度同様、幼稚園に求められている社会的なニーズが変化してきている。こうした背景をふまえて、今、子ども達にとって、1番大切なものは何か、親子のつながりの大切さ、を見失うことなく、本園が、これから、どのような社会ニーズにこたえることができるのかを検討しながら進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宗教教育をする中で、カトリック研修、守護の天使姉妹修道会のシスターからカトリックの幼稚園として、カトリック幼稚園の教員としての心構えを指導いただき、まずは、自分自身を見つめ直し、改善すべきところは改善し、教職員同士分かち合い、お互いを認め、協力し、自己向上を図るとともに、子ども達の教育に役立てる。 教職員間で昨年度に続き、本園の教育理念の一つである“がんばる心”についての園内研修を行う。『がんばる』ということは、目標や使命の為に力を発揮しがちではあり、また、励ましのつもりが、時としては、相手の心を辛くさせてしまうこともある。一人ではない、いつも共にいる、一緒にいるということ子ども達にも伝えながら、『がんばる心』の成長ができればよい
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の保育の中での問題点・疑問点について、園長・主任との話し合いの場を設け、教職員で話し合い、今後の改善を行うように努めている。 学年に応じた子ども達の発達をとりえるため、月に1度、話し合いの場を持ち、見直し、(内容が子ども達に適しているかどうか、無理がないかどうか)反省をするとともに、次への課題を持って、カリキュラムを立てる。 主任を中心に縦・横の連携を大切に、教職員が自由に意見を開示できる環境を作っている。 特別支援教育にも力を入れ、研修会には進んで参加し、研修報告書をもとに分かち合っている。 食物アレルギーの対応にも力を入れ、教職員共通理解の上、取り組む。(エピペンの使用方法) キンダーカウンセラーの研修を行うことにより、寄り一層子ども達への理解をカウンセラーの先生より指導を受ける。また、家庭環境を知ることで、園との連携の大切さを認識する。

<p>保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末にアンケートを実施し、教職員で見直し、検討し、今後の保育の参考とする。 「本園に入園させて良かった?」「安心して子どもを任すことが出来る?」、という設問に対し、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が、99%~100%あり、高い評価を得ている。 ・保護者からの意見に関して内容を真摯に受け止め、改善すべき問題には、改善できるように取り組んでいる。 ・保護者とのかかわりの中で、教職員同士が分かち合える時間を作り、自己向上を図る。 ・教職員一人一人が、自覚と責任をしっかりと持ち、毎日の保育に取り組む。 ・キンダーカウンセラー事業を推進する。 (園児・保護者・未就園児・卒園児保護者・地域の方々・教職員他)
--	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践するよう努めた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
<p>子育て支援 (預かり保育及び 2歳児未就園児子育て支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○預かり保育について(預かり時間拡大:8:00~18:00 長期休暇有) <ul style="list-style-type: none"> ・内容の充実を図る。 幼児期にとって1番大切な【親子の時間】を毎日の生活の中で、十分とっていただくことを考慮して行う。 ・家庭的な雰囲気の中で、充実した預かり保育、そして、異年齢の関わりを大切にしながら考慮して行う。 ・幼稚園保育終了後の活動なので、幼児の発達はもちろん午前中の活動との関連や、負担に配慮し、家庭的な雰囲気の中で子ども達を預かるといった基本の見直しをしていきたい。 ・家庭教育の大切さを見失うことなく、長期休暇の預かり保育を行う。 ○2歳児未就園児子育て支援(クラス編成・親子教室) <ul style="list-style-type: none"> ・内容の充実。(できることを増やす。それが自信・喜びにつながるように・・・) ・保護者の悩み相談。(キンダーカウンセリング) ・幼稚園という教育の場を知ってもらい、お友達を知ってもらう場、親子共に成長する場としてまた、保護者の方の情報交換の場として、不特定多数の方に参加していただけるよう、考慮したい。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると、認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。